２０１２／０４／２２　　礼拝メッセージ　　ジム・ライト牧師

主　　題：　Ｉ　ＢＥＬＩＥＶＥ
聖書箇所：　随所

ジム・ライト牧師の紹介
　アメリカ、アトランタから南へ約１時間半、ブルックスにあるホワイト・ウォーター教会の牧師として神に仕えておられます。その教会には浜寺聖書教会の会員であるホーガン・吉子姉が所属しておられます。ビジネスマンとしてご自分の会社を経営して来られましたが、６０歳のときに神学校で学ばれ、６３歳からホワイト・ウォーター教会の牧師を務めておられます。昨年の１０月に、５０年連れ添われたサンディ夫人を天に送られました。

Jim Wright 牧師
　「おはようございます。名前はジム・ライトです。初めまして、どうぞよろしく。」（日本語で）、ここにいることを心から喜んでいます。私が知っている日本語のすべてを今皆さんは聞かれたと思います。通訳の方がいることを感謝しています。ジョージア州のブルックスという町にあるホワイト・ウォーター教会から皆さんにご挨拶をします。私たちの教会に属している日本人のクリスチャンの方々が、自分たちの国のことばでみことばを聞く機会を年に２回、皆さんが近藤先生を送ってくださることによって実現させてくださっていることを、皆さんに心から感謝いたします。私たちの教会にホーガン・吉子さんがいますが、彼女は１２歳のときに浜寺聖書教会で信仰告白されて教会員になりました。彼女からのご挨拶も皆さんにお送りしたいと思います。１２年ほど前に初めて近藤先生にお会いしました。遠くに住む教会員を訪ねて来られたときだったと思います。それ以来、浜寺聖書教会とホワイト・ウォーター教会との間にすばらしい関係が築かれて来ました。日本人の方々にアメリカで教えをするために近藤先生を送ってくださっていることを改めて感謝したいと思います。また、妻のために皆さんのお祈りと励ましのお手紙やカードを送ってくださったことを感謝します。長い闘病を続けて、最近主のもとに行った妻のことを覚えてくださっていることを感謝いたします。私は今も彼女を愛しています。彼女は今、イエスとともにいますが、もうすぐ彼女とともにいるイエスのもとに行くことを感謝しています。
　今日、私はここにおられるクリスチャンの皆さんにメッセージをしたいと思います。このメッセージをするに当たって、いくつかの事柄を通してメッセージの骨格を作っていきたいと思います。
１．神を信じる人は天に国籍をもつ
　まず、皆さんにお伝えしたいことは、もし、皆さんがクリスチャンで確かに救われておられるなら、皆さんは日本人ではありません。日本に住むことはできますが、クリスチャンになったために神の家族に加えられた、養子に入れられた者です。私はアメリカから来ましたが、私は以前はアメリカ人でしたが今はクリスチャンです。これは何が重要なのでしょう？聖書は私たちに二人の主人に仕えることはできないと言います。最初の主人を愛して二番目の主人を嫌うか、または、二番目を愛して最初の主人を嫌うかのどちらかです。そこで言われていることは、同時に二人の主人に仕えることはできない、どちらかに専心することしかできないということです。
　ですから、私たちは選択をしなければいけません。私たちは神に仕えるのか、それとも、私たちの国の人たちに仕え、その社会に仕えるかのどちらかです。聖書は私たちに、神に従う決心をした者たちはこの世から取り除かれた者、分離された者と教えます。このことを皆さんはⅡコリント５：２０で見ることができます。**「こういうわけで、私たちはキリストの使節なのです。ちょうど神が私たちを通して懇願しておられるようです。私たちは、キリストに代わって、あなたがたに願います。神の和解を受け入れなさい。」**。
　マタイ６：２４ではイエスがこのように言われています。**「だれも、ふたりの主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛したり、一方を重んじて他方を軽んじたりするからです。あなたがたは、神にも仕え、また富にも仕えるということはできません。」**。Ⅱコリント５：２０にあるように、私たちクリスチャンはキリストによって遣わされた大使です。日本の大使がアメリカに行ってそこで仕事をするときに、その人物は日本からやって来たのですが、アメリカに住んでいながらも日本の国益のために、日本のための働きをアメリカで為すわけです。別の言い方をするなら、大使として、使節として、日本の事柄をアメリカの人たちに伝える役割を果たしているのです。私たちクリスチャンは神の家族に加えられて、神の国の民として受け入れられたのですが、その私たちはキリストの御国の大使として今、この地上に置かれて遣わされているのです。聖書はそのことを私たちに、私たちクリスチャンはこの世にあるけれどこの世の者ではないと言います。

多くのときに私たちは、キリスト教を私たちのこの地上の生活に付け足そうとします。そうすることによって、この地上での生活を楽しみ、この地上での友情を保ちながら、天で待っている永遠の報いを受けることができると考えています。けれども、私たちは天にいくために救われているのではありません。イエスが弟子たちを最初に召したときに、イエスは「天にいきたいか？」と呼びかけたのではなかったのです。何と言われたのでしょう？マタイ４：１７，１９にこのように記されています。**「この時から、イエスは宣教を開始して、言われた。「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから。」「:19 イエスは彼らに言われた。「わたしについて来なさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう。」**と。イエスが言われたことは**「悔い改めなさい。」**でした。そして、**「わたしについて来なさい。」**と言われました。

ですから、国籍をどこにもっているのかは非常に重要になります。私たちはみな神の国の国籍をもたなければいけないのです。それはイエス・キリストに対する信仰によってのみ与えられます。

２．神を信じる人は神に献身する

神は私たち人間社会において家族という組織を形成しました。世界のあらゆるところで、あらゆる文化に家族という単位があります。父、母、子ども。人間を造られたときから、神はそのことを定めておられました。創世記に始まってからずっと神は家族という組織を造っておられました。サタンはその家族を崩壊しようと努めています。若い人たちに向かって「結婚する必要はない。家族をもつ必要はない。いっしょに暮らせばいいではないか。」と言います。その響きはいいかもしれません。献身的にパートナーだけを愛することは関係なくなります。もし、けんかをしたら別れたらいいだけのことです。

けれども、神はそのようには言われません。相手が自分のことを愛してくれなくてもその相手を愛さなければいけないと教えます。夫が妻の愛を受けるにふさわしくない人物であったとしても、妻は夫を愛さなければいけないのです。そこに私たちの献身があるのです。神は子どもたちが親に従うように教えます。神は子どもたちに親に尊敬を払わければいけないと教えるのですが、親は必ずしも尊敬を受けるに値する人物ではないかもしれません。でも、尊敬しなければいけません。それは私たちに神に対する献身があるからです。イエスに従っていくことは私たちの献身の現われです。

私たちが今日、教会にいることではないのです。教会に集うことは確かに重要なことですが、それが終着点ではありません。単なる始まりでしかありません。皆さんがここから出られたときにどうなりますか？皆さんの思いはどこにいくのでしょう？皆さんの心はどこにあるのでしょう？それが最も重要なことなのです。もし、明日（月曜日）だれかが皆さんを怒らせるようなことをしたとき、どのように対応しますか？皆さんは今日神のために１時間、時間を使いました。明日はどうしますか？皆さんは自分の心に受け入れた福音のメッセージを友人に伝えようとするほど、その友人を愛しておられますか？皆さんの友人たちは、皆さんの生涯が彼らと違うことを見ていますか？もし、皆さんのキリストに関する知識が頭の中にしかないとするなら、皆さんはキリストをもっているのではなく、キリストに関する知識だけをもっているのです。皆さんはキリストを知っているだけでは救われることはありません。

皆さんは、神が一人だけだと信じておられますか？悪魔たちもそれを知っています。そして、彼らは私たち以上にそれを恐れているのです。ヤコブの手紙２：１９－２０を見てください。**「あなたは、神はおひとりだと信じています。りっぱなことです。ですが、悪霊どももそう信じて、身震いしています。:20 ああ愚かな人よ。あなたは行ないのない信仰がむなしいことを知りたいと思いますか。」**と。私たちは悪魔が救われていないことを知っています。けれども、彼らはそれを信じて恐れているのです。救いを得るために「神はおられる」ということを知っているだけでは十分ではないのです。

ヨハネ１４：６でイエスはこのように言われます。**「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。」**と。皆さんはすでにご存じかもしれませんが、私たちの神の名前を知っておられますか？私たちは「神」と呼びます。この方は「エホバ」、旧約聖書では「ヤーウェー」と呼びます。モーセが神に「あなたの名は何ですか？」と聞いたときに、神はモーセに対して「わたしはある」と答えました。わたしは常に存在する、過去においてわたしが存在しなかったときはないし、今も存在しているし、未来においても絶対にわたしの存在がなくなることはないと神は言われるのです。わたしは人とは違って、名前が必要なわけではない、わたしは存在する、「わたしはある」というものだというのです。皆さんは神がおられることを信じておられるし、神が言われることは正しいと認めているかもしれません。この方が**「道であり、真理であり、いのちである」**と思っておられるかもしれません。教会に来て賛美をし、友人たちと交わりをもつことが好きかもしれません。けれども、それらが私たちに救いをもたらすわけでなないのです。私たちに救いをもたらす信仰はマタイの福音書４：１７と１９で見たその信仰です。イエスは「来て救われなさい」とは言われませんでした。イエスが言われたのは「悔い改めなさい」でした。**「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから。」**と。その２節後に**「わたしについて来なさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう。」**と言われました。イエスは「救われたいですか？」とは聞かれませんでした。イエスは「天国にいきたいです

か？」とは聞かれなかったのです。すべての人は「救われたい」と願っています。何から救われるのでしょう？神の怒りから私たちは救われるのです。すべての人が神の怒りから救われたいと願い、すべての人が天国にいきたいと願っています。

３．神を信じる人には悔い改めがある

　では、クリスチャンはその人たちと何か違うのでしょう？「悔い改め」です。悔い改めとはいったい何でしょう？ある人たちは「悔い改めとは私たちが犯した罪に対して非常に悲しい思いをもつこと」と定義します。イエスを銀貨３０枚で売ったイスカリオテのユダは、自分が犯した罪に対して悲しんでいたという意味においては悔い改めています。けれども、その後彼は首をつって死んだわけです。イエスを拒絶したからではなく彼が本当の悔い改めをすることがなかったからです。そのことはどうして分かるのでしょう？皆さんも思い出すことができるように、ペテロもイエスを三度否定しました。しかし、ペテロは自殺しませんでした。ペテロは真の悔い改めをもって悔い改めたからです。彼はキリストから離れる道を歩んでいたかもしれないけれど、彼は行く道から悔い改めて１８０度立ち返り、反対を向いて、キリストに従い、キリストに似た者になろうとし、キリストと同じ行ないを行なって生きていこうと努めていったのです。

　ですから、真の悔い改めとは、単に私たちの目に涙をもたらすだけでなく、私たちの人生に大きな変革をもたらすものなのです。Ⅱコリント５：１７－１８を見てください。**「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。:18 これらのことはすべて、神から出ているのです。神は、キリストによって、私たちをご自分と和解させ、また和解の務めを私たちに与えてくださいました。」**。非常に重要な質問です。皆さんはキリストにあって新しく造られた者でしょうか？皆さんがもっていた古い生き方はすべて過ぎ去ったものですか？そして、皆さんはキリストのみこころを皆さんの毎日の生活のすべてにおいて受け入れていますか？１８節を見てください。すべてのことは**「神から出ている」**、そして、神は私たちをご自分と和解させたと言います。私たちと神との関係を良いものにしてくださったのです。救われた者は、救われた後、今までと同じ状態でいることはだれもできません。神は私たちに違う者になりなさいと言います。聖書は「もし、世がわたしを憎むなら世はあなたがたを憎みます。」と言います。皆さんはキリストの御名のために世から憎まれることを良しとしますか？私がアメリカ人のように生き、皆さんが日本人のように生き続けるなら、人々はだれも私たちの中に変化を見ることがないのです。そして、その変化がないゆえに、キリストのために彼らが働きかけられることがないのです。

　ある人たちは、それは私たちがこの聖書をもって世に出て行って、人々の頭を聖書で叩き続けることだと考えます。でも、そのような意味ではありません。私たちは人々を愛します。私たちは他の人々のために自分たちを犠牲にしようと願っています。みことばが言うように、私たちは他の人たちを自分よりも良いものと考えるのです。もし、クリスチャンである兄弟姉妹がつまづくなら、彼らは私たちを責めることをしません。彼らの過ちから彼らを立て上げるのです。立て上げて勇気付けるのです。イエスが言われることは、明日、私たちは彼らと同じようにつまづくかもしれないそのとき、彼らの助けがあなたに必要かもしれないからと。皆さんの会社のあらゆる人たちの給料が上がって、あなただけがそのままだとしましょう。そのことのために皆さんは心を騒がせ怒りをもつかもしれません。でも、クリスチャンはそんなことをしないのです。少なくとも、クリスチャンはそうしないでいることを学ぼうとします。聖書は「信仰をもつことがなければキリストを得ることはできない」と言います。もし、そのときに皆さんが憤りを覚えるとするなら、皆さんの勤めている会社が皆さんの収入を保証していると考えてください。いったい、その辺りに咲いている草花はどうして保たれているのでしょう？皆さんの会社ですか？それとも、太陽の光や雲や雨ですか？花の成長を保つために太陽を与え雨を与え、地球を回転させているその力をもっている神が、私たちの生活を保障してくださるのです。だから、皆さんが考えるべきことは、私以外のすべての人が昇給しました。では、そのことがどのように私が神を称えるために、栄光を現わすために用いられるのだろうということです。

　私の友人たちがやって来て「ジム、あなたは昇給しなくて可哀想に、きっと怒っているにちがいないね？」と言いますが、「私だけが上がらなかった？知らなかった。それが問題ですか？神が与えてくださるから。」と答えます。神が備えてくださる、神が本当に私たちを支えてくださると皆さん信じておられるでしょうか？私たちは神が与えてくださる機会を逃してしまいます。なぜなら、私たちはこの世の人たちと変わらない生活を送るからです。もし、神がすべてを備えてくださると信じているなら、私たちはそのような事柄に対して不安を抱く必要がなくなるのです。確かに、お金は必要かもしれませんが、そのような状況でも神が与えてくださると確信しているのです。

　皆さんの友人たちは皆さんが怒らないことを見て、憤りをもたないのを見て、何と不思議なのだろう？どうしてなのだろう？とやって来ます。彼らが皆さんのところにやって来て、皆さんがクリスチャンで

あることを聞こうとしているのです。私たちがキリストの子どもとして、キリストに似た者としての生涯を歩んで行くなら、人々はなぜ私たちがそんなに違うのか聞きたがるのです。私たちは、私たちが周りの人たちと同じような生き方をしているのかどうかを見なければいけません。その多くは、私たちがこの自分たちが生きる人生にどのような態度をもって向かおうとするのかに懸かっています。私たちは自分の私利私欲のためにあらゆるものを自分のものにしたいと願っているでしょうか？それとも、私の人生のすべてにおいて神を称えることを願っているのでしょうか？

Ⅱコリント５：１８に**「これらのことはすべて、神から出ているのです。神は、キリストによって、私たちをご自分と和解させ、また和解の務めを私たちに与えてくださいました。」**と書かれていました。神と私たちはちょうど、磁石の同じ極が同じ方向に向かっているようなものです。プラスとプラスを合わせたときにくっつこうとしません。神は完全に聖い方で、人は罪深い者です。ですから、私たちは磁石の同極が向かい合っているように、相容れることがないのです。けれども、悔い改めるということは、その磁石をひっくり返してプラスに向いていたのをマイナスに向けることによってくっつくことです。それが神と私たちが和解をするということです。私たちは神とひとつになるのです。ちょうど、夫と妻が結婚することによって一つになることと同じことです。私たちは神と一つになるのです。キリストが私たちのうちにあり、私たちがキリストのうちにあるのです。

４．和解の務め

でも、皆さんはもしかすると「私は地獄に行きたくないから救われたいと思っていたのです。」と言われるかもしれません。でも、そうなるためには私たちはキリストのうちにいなければいけないし、キリストが私たちのうちにいなければいけないのです。そして、１８節の最後に重要なことが書かれています。**「また和解の務めを私たちに与えてくださいました。」**と。これが私たちがしなければいけないことなのです。私たちはイエス・キリストの福音を伝えに出て行くのです。世の果てまで行って福音を伝えるのです。私たちはそれを家で始めるのです。もし、皆さんが悪魔のように家の中で生活しているなら、世に出て行ってキリストのように生きることはできないのです。私たちの家族がキリストの愛を見なければいけないのです。妻がその愛を受けるにふさわしくない人物であったとしても、その愛を与えなければいけないのです。夫がたとえ尊敬を受けるに値しない人物であったとしても、妻はキリストを愛するゆえに、夫を愛し尊敬しなければいけないのです。妻は夫を尊敬するべきです。なぜなら、神が「夫を敬いなさい。」と言うからです。

そして、子どもたち、若い皆さん、聖書は子どもたちに対して「親を敬いなさい」と言います。でも、皆さんは「あなたは私の両親をわかっていないのです。」と言うかもしれません。でも、聖書は親が尊敬に値するから敬うと言っているのではありません。彼らは酷い親かも知れません。けれども神は、それにも関わらず、皆さんが親を尊敬することによって親がキリストを知ることになると言うのです。ですから、私たちがこの世であらゆることを為すその目的は、人々が私たちのうちにいるキリストを見ることです。それがここで言われている**「和解の務め」**です。

多くのクリスチャンたちはもしかするとこのように言うかもしれません。「私たちは牧師を雇って、彼らが福音を伝えに行くのだ。」と。それは聖書が言っていることではありません。聖書は「私たちクリスチャン一人ひとりが神に仕える祭司であり、福音を携えて出て行く者」と教えます。牧師は働きをする者たちを訓練する人です。もちろん、牧師も働きをします。しかし、皆さんが働き人なのです。皆さんが自分のことをクリスチャンだと言うなら、神は皆さんがこの務めを為す者であると言っていることを覚えなければいけません。皆さん以外から、皆さんの家族はどのようにしてキリストについて知ることができるのでしょう？皆さんが働かなければ、皆さんの友人はどうしてキリストを知ることができるのでしょう。また、皆さんの同僚たちが皆さんの生き方を通して以外に、神を知ることができるのでしょう？キリストは皆さんをこの世に遣わしているのです。イエスは「わたしに従いなさい。」と言われます。そして、皆さんを「人を漁る漁師にする」と言うのです。

神は皆さんを日曜日に教会に来るためにクリスチャンにしたのではありません。教会は良いところで、交わりはすばらしいものです。けれども、それがすべてではありません。それは始まりでしかないのです。私たちはここから出て行って、そして、この世に対して**「和解の務め」**をもっているのです。もしかすると、皆さんは「私はそのようなことはできない、上手に話すことができないから。」と言われるかも知れません。神は私たちが恐れることがないとは言いません。神は私たちにこの務めを果たすに当たって、口が上手でないといけないとは言っていないのです。神が言われることは、神がもうすでに皆さんに与えたものを用いて神の栄光を現わしなさいということです。皆さんには特別な訓練がいる、みことばを暗唱していなければいけないというわけではありません。皆さんが証しなければいけないことは何でしょう？皆さんは罪人であり永遠の地獄に向かっていましたが、キリストによって救われ人生が変えられたこと、そのことを伝えるのです。イエスがもし皆さんの生涯に何も為していないなら、皆さん

は何も伝えることはありません。私はいつも神にそのことがよくできるようになりたいと願って祈ります。この知識や力は神から与えられるものだからです。

使徒の働き１：８に記されていることは、私たちが力を得るのは聖霊が私たちに来た後だということです。**「しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」**。私たちが神の前に正しく生きていきたいと心から願って、神の務めを為していきたいと考えているときに、神は天からその私たちの姿をご覧になって、「本当にそれをしたいと願っているのだな」と分かって、私たちに聖霊を与えてくださるのです。神は聖霊の力を正しく用いようとしない人たちに、無益に、無駄に与えようとはしないのです。神は聖霊を私たちに与えることによって、私たちが心地良くなるようにしようとしているのではありません。神が聖霊を私たちに与えてくださるのは、私たちがその力によって、この地上にあって神に望まれる生き方をしていくがゆえに、人々がその違いを見て、キリストに引き付けられてゆく、そのためにです。

５．神を信じる人は神の奴隷になる

ピリピ２：７でパウロはイエスは私たちの前に仕える者の姿をとって来られたと言っています。**「ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられたのです。」**と。いったい、だれに仕える者としてやって来られたのでしょう？父なる神の奴隷として来られたのです。ゲッセマネの園でイエスは父なる神にこのように祈りました。マタイ２６：３９**「わが父よ。できますならば、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願うようにではなく、あなたのみこころのように、なさってください。」**と。私たちの聖書の訳を見ると、多くの場合、ここは「仕える者、しもべ」と訳されていますが、ここで使われていることばは「奴隷」です。一切の権利をもたない全くの奴隷です。それが私たちがならなければならないものです。

ガラテヤ１：１０の後半には**「もし私がいまなお人の歓心を買おうとするようなら、私はキリストのしもべとは言えません。」**とあります。ローマ１：１に**「神の福音のために選び分けられ、使徒として召されたキリスト・イエスのしもべパウロ、」**とあるようにパウロはキリストの奴隷だったのです。

テモテに対してパウロは**「主のしもべが争ってはいけません。むしろ、すべての人に優しくし、よく教え、よく忍び、」**と命じています（Ⅱテモテ２：２４）。テトス１：１には**「神のしもべ、また、イエス・キリストの使徒パウロ――私は、神に選ばれた人々の信仰と、敬虔にふさわしい真理の知識とのために使徒とされたのです。」**とあり、ヤコブ１：１でもヤコブは自分が神と主イエス・キリストの奴隷であると言います。**「神と主イエス・キリストのしもべヤコブが、国外に散っている十二の部族へあいさつを送ります。」**。Ⅱペテロ１：１では**「イエス・キリストのしもべであり使徒であるシモン・ペテロから、私たちの神であり救い主であるイエス・キリストの義によって私たちと同じ尊い信仰を受けた方々へ。」**と。ユダ１では**「イエス・キリストのしもべであり、ヤコブの兄弟であるユダから、父なる神にあって愛され、イエス・キリストのために守られている、召された方々へ。」**と言ってこの手紙は始まっています。黙示録１：１では**「イエス・キリストの黙示。これは、すぐに起こるはずの事をそのしもべたちに示すため、神がキリストにお与えになったものである。そしてキリストは、その御使いを遣わして、これをしもべヨハネにお告げになった。」**とあります。

旧約聖書も含めてこのことは教えられていますが、同じ黙示録１５：３で神に仕えたモーセが神の奴隷であったことを教えています。**「彼らは、神のしもべモーセの歌と小羊の歌とを歌って言った。「あなたのみわざは偉大であり、驚くべきものです。主よ。万物の支配者である神よ。あなたの道は正しく、真実です。もろもろの民の王よ。」**。ピレモンへの手紙ではこの概念が別のことばで使われています。皆さんがもし犯罪を犯して囚人として牢に入れられたとするなら、皆さんには自分の権利を主張することはできません。だれかの支配のもとに生きなければいけないのです。食事をするにもお風呂に入るにも何をするにも人の許可が必要なのですが、それをもってパウロはこのように言います。ピレモン１：１**「キリスト・イエスの囚人であるパウロ、…」**と。ローマ１４：８では**「もし生きるなら、主のために生き、もし死ぬなら、主のために死ぬのです。ですから、生きるにしても、死ぬにしても、私たちは主のものです。」**とパウロは言います。ヨハネ１５：１９には**「もしあなたがたがこの世のものであったなら、世は自分のものを愛したでしょう。しかし、あなたがたは世のものではなく、かえってわたしが世からあなたがたを選び出したのです。それで世はあなたがたを憎むのです。」**とあります。

この世は悪魔の支配下にあります。けれども、その中で皆さんがキリストに喜ばれる生き方をしていくときに、違いを現わしていくときに、人々は皆さんに引かれて行くのです。いったい、神はどこにおられるのでしょう？この建物は聖いものではありません。この教会が特別なところであるのは、神が私たちのうちに住んでくださるからです。だから、教会に皆さんが集まって来るのです。神が与えてくださる、神が皆さんのうちに内在するがゆえにあるその聖さがこの場所を聖くするのです。もしかすると、皆さんはこのようなことを聞くときに、それは難しいことです、とてもできませんと思うかも知れませ

ん。でも、神はすべての解答をもっておられます。それがみことばの中にあります。もし、皆さんがまだその解答を見つけていないとするなら、みことばを十分に探求していないからです。みことばを探り求めるときに、私たちはこの人生に対する答えをそこに見出すことができるのです。皆さん、神はすべてのことを為すことができるのです。

６．神を信じる人は成長して行く　：　祈りに応えた神の助けによって

神は私たちが完全であることを望んでおられるのではありません。私たちが不完全であることを神はよくご存じです。私たちがすばらしいことをしたから神が受け入れてくださるわけではありません。なぜなら、私たちには良いわざなどありません。神は私のことを見て「ジム・ライトという人物は大きな罪人である。彼はわたしのことが必要である。」と、そのように言って、神は私のためにこの地上にやって来られて、私のために死んでくださったのです。

皆さん、パリサイ人のことを憶えていますか？イエスは彼らに向かって言われました。**「医者を必要とするのは丈夫な者ではなく、病人です。」**（マタイ９：１２）と。健康な者に医者が必要なのではなく、病気の者に医者が必要なのです。私たちが罪人であることに気づいた時に、私たちは初めて救われる必要があることに気付くのです。それが私たちに必要な知識です。私たちがクリスチャンになったときにも私たちはなおも完全ではありません。私たちは多くの失敗をします。ちょうど、赤ちゃんが歩き始めたときにいろいろなものを壊しながらつまづきます。歩くことが上手にできないから、私たちは子どものところに行って子どもを起こして、歩けないからといってむちを与えることはしません。子どもがうまく歩けなくて倒れた時に、私たちは子どもを優しく抱きかかえて言います。「何とすごいことをしたのだ！もう一度頑張りなさい。」と。そのように私たちもクリスチャンとして人生を歩んで行くのです。そして、私たちもつまづくことがあります。けれども、キリストは私たちのところに来てむちをもって私たちを叩きつけようとはしません。キリストは私たちの外側の行ないを見るのではなく、私たちの心を見るのです。そして、キリストは私たちの心を見て、それが正しいときに、私たちのもとにやって来て、私たちを抱きかかえて「頑張ってもっとやりなさい」と言われるのです。

もしかすると、皆さんは怒りっぽい人かもしれません。イエスに「どうぞ、この怒り易いことを助けてください」と言うかもしれません。もしかすると、皆さんはもう神にお願いしたからまたお願いするのはどうかなと思っているかもしれません。神はすぐにあきらめる方ではありません。ですから、皆さんは神に向かって「どうぞ、この怒りっぽさを直してください。」と何千回も頼むのです。そして、何千回の神は皆さんのところにやって来て、皆さんがつまづくときに助けてくださるのです。何度も何度も皆さんは同じことを繰り返します。そうしているときに、皆さんの奥さんが言います。「以前のように怒らなくなりましたね。」と。それは、私たちの変化は一日二日で起こるものではなく、長いスパンの中で起こっていくのです。そのことを「聖化の過程」と呼び、私たちはキリストに似た者へとだんだんと変わって行くのです。赤ちゃんは生まれるまでは成長することはありません。私たちはキリストのもとに来るまでは私たちはキリストのことを知り、人生の意味を分かって成長していくことはできないのです。けれども、私たちは確信することができます。神はご自身の子を愛しておられるということです。

ときに、神は私たちにむちを与えなければいけないときがあります。それは良いことです。神が懲らしめを与える時は神が愛しておられることを知っているからです。戒めることと罰を与えることは必ずしも同じことではありません。自分がした間違ったことに対してその支払をするというのが罰かもしれません。でも、懲らしめとは今日より明日、良く生きることができるように助ける働きをします。ですから、聖書は私たちに対して「神からの懲らしめを快く受け入れなさい」と言います。私たちの両親が私たちに懲らしめを与える時に、それが両親の愛であることを知っています。良い社会人として生きていくために必要なことであるから。同じように、神は私たちが神に御国にあって良い市民となっていくことができるように懲らしめを与えてくれるのです。

◎未信者の方に

もし、皆さんがまだ決心をしておられないなら、今日が救いのときなのです。今がこの救いを受け入れるときなのです。聖書は私たちにすべての者が罪を犯して神の栄光を受けるに値しない者になったと言います。ローマ３：２３に**「すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、」**と記されています。けれども、２４節にすばらしいことばが記されています。**「ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義と認められるのです。」**と。

もう一つだけみことばを引用してこのメッセージを終わりましょう。使徒の働き１７：２８－２９**「私たちは、神の中に生き、動き、また存在しているのです。あなたがたのある詩人たちも、『私たちもまたその子孫である。』と言ったとおりです。:29 そのように私たちは神の子孫ですから、神を、人間の技術や工夫で造った金や銀や石などの像と同じものと考えてはいけません。」**と。ここで**「神を、人間の技術や工夫で造った金や銀や**

石などの像と同じものと考えてはいけません。」と言っています。それが神ではないからです。私たちの神は私たちが心から自分たちの優先順位を与え自分たちの時間を使い、自分たちのエネルギーを使うものすべてが神なのです。ですから、皆さんの仕事が神になることがあります。スポーツが神になるかもしれません。皆さんの家族が神になるかもしれません。私たちの過ごす時間、どのようなものに時間をかけるのか、それが私たちの神となっているのです。聖書は私たちに「わたしに従いたいと思うなら家族を憎まなければいけない」と言います。ここで言わんとしていることは、家族を憎むことではなくて、家族であっても仕事であっても、もし、私たちが神を愛することを先ず最初に学ばなければ、それらのものを心から喜び楽しみ、愛することはできないということです。

どうでしょう？皆さん、今このときが選択のときなのです。皆さんは今まで生きて来たのと同じように生きることができます。でも、もし、皆さんがキリストを信じていないなら、皆さんは今日この救いを受け入れるときです。その選択は皆さんにあるのです。

もし、クリスチャンなら、明日は今まで生きて来た日々と変わらない日でしょうか？それとも、皆さんは新しく造り変えられた者として、聖霊によって満たされてキリストのすばらしさを現わすために違いを人々に見せる、そのような生き方をするのでしょうか？私が皆さんにお願いしたいことはこのことです。私が今言ったことをどうぞ信じないでください。私が言ったことが問題ではないのです。私が今皆さんにお伝えしたことが、みことばに書かれていることと同じであると思うなら、どうぞ、このみことばが言っているからそのことを信じてください。多くの人々は多くのときに、説教者が語っていることをそのまま受け入れて、聖書が言っていることが何なのかをはっきりと考えない場合があります。でも、もし皆さんが聖書がよく分からないとするなら、その理由を教えましょう。皆さんは祈っていないからです。もし、皆さんが熱心に祈るなら、聖霊が皆さんにみことばの理解を与えてくれるのです。皆さんにわけの分からない書物を与えようとして、意地悪をしているのではなく、皆さんが心から熱心にこのみことばを知りたいと願い求めるときに、神は聖霊を通してその理解を与えてくださるのです。

もし、私たちがみことばを暗唱するなら私たちは頭に知識を蓄えているかもしれません。それは私たちの生活を変えるものではありません。けれども、もし、聖霊が私たちの頭の中にあるみことばを消化してくださるなら、その栄養が心に入り、私たちの心は大きく変えられて、私たちの人生に大きな変化がもたらされます。黙示録にあるように、イエスは私たちの心の扉をたたいてくださっています。皆さんは心の扉を開いてイエスを受け入れようとしているでしょうか？クリスチャンであることは難しいことではありません。クリスチャンになるまではそのことは難しい困難なことと思うかもしれませんが、クリスチャンになったときに私たちは知るのです。聖霊が私たちを導いてくださって、この聖霊の導きに沿った人生ほどすばらしいものはないことを。

皆さんが自分の力で何とかこれをしなければならないと思って、無理やりやらされているとするなら、皆さんの喜びはそこにはないでしょう。けれども、もし、皆さんが心から神を愛して神に従っていきたいというその願いをもってこの方に仕えていくとするなら、皆さんの心には喜びがあり、どんな状況にあっても、そこに心から神を称え、喜び感謝する思いが与えられるのです。